

【暗唱聖句】 「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる」 エレミヤ 31:31

【日曜日・見よ、その日が来る】

主は、エレミヤ 31:31 で、「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る」と言われました。新しい契約とは何のことでしょうか。古い契約であるシナイ契約はどうなったのでしょうか。31:32 を見ると、「この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った」と書かれてあります。新しい契約は古い契約とは異なると述べられています。それは彼らとその契約を破ったからです。契約不履行により契約は破棄されたということになるわけですが、古い契約である十戒の教えは、神様の愛の性質そのものであり、それが消えてなくなってしまうとは考えられません。そうではなく、新しい契約という形で更新されたのです。では、それはどのような契約なのでしょう。31:33 を見ると、こう書かれてあります。

「しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」

十戒は石版に神様が直接書かれましたが、新しい契約は一人一人の胸の中に記されることとなります。分かりやすく言えば、神様の教えを思い出す、忘れないということです。またそれは神の愛ですから、神様の愛が自然に湧き上がってくるということです。しかし、すべての人ではなく、契約関係にある者たちの中にだけ記されます。また、31:34 には次のように書かれてあります。「そのとき人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである」。これは実に驚くべき約束です。心に律法である神の愛が記された人は、子どもでも老人でも、学の無い人でも、どんな人でも、神様を知ることができるのです。私たちはいま、そのような新しい契約の時代に生きていますが、以前はそうではなかったのです。さらに言葉は続きます。「わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない」。「再び彼らの罪に心を留めることはない」との表現からも分かる通り、新しい契約には、完全な罪の赦しがあるということです。これは本来契約関係においては絶対にあり得ないことなのです。神の愛の律法が心の中に書き記されても、それを守れるかどうかは別問題です。ここに大きな矛盾と葛藤が生じます。だからこそ、キリストの贖いによる神様の赦しが私たちには必要なのです。

【月曜日・心の働き】

エレミヤより少し前、北イスラエルで活躍した預言者ホセアは、エレミヤとは時代も舞台も異なりながら、預言の内容はとても似通っています。ちなみにホセアが北イスラエルで預言活動していた時、ユダではイザヤが預言活動をしていました。ホセアは 2:22 で次のように語られています。「わたしはあなたとまことの契りを結ぶ。あなたは主を知るようになる」。

ホセアはまことの契約を結び、それにより主を知るようになるという約束を語っています。これはエレミヤが語った新しい心に記される契約により、主を知るようになるという約束と共通しています。またエレミヤよりも後に登場した預言者エゼキエルもエレミヤの預言と似た預言の言葉を語っています。「わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える」(エゼキエル 36:26)。エゼキエルは新しい心と新しい霊を与えると語り、それにより石の心を取り除き、肉の心を与える、つまり頑なな心から柔軟な心に変えることを預言していますが、「新しい心」「新しい霊」という表現が、エレミヤの心に新しい契約を記すという表現と似ています。この霊に満たされた新しい心により、主を知るようになるということです。このように新しい契約が与えられるということを、多くの預言者の唇を通し主が語っておられることから、それが重要な真理であることがわかります。

【火曜日・古くて新しい契約】

シナイ契約はもちろんですが、新しい契約も「イスラエルの家」(へブル 8:8) と結ばれる契約であることが述べられています。しかし、これはユダヤ人以外のものと神様は契約を結ばないということの意味しているわけではありません。イザヤ 55:6,7 に描かれてあるように、異邦人に対しても同様の約束が語られています。

「また、主のもとに集って来た異邦人が主に仕え、主の名を愛し、その僕となり、安息日を守り、それを汚すことなくわたしの契

約を固く守るなら、私は彼らを聖なるわたしの山に導き、わたしの祈りの家の喜びの祝いに連なることを許す」イザヤ 56:6, 7

ここに、異邦人が「わたしの契約を固く守るなら」、すなわち、「主のもとに集まり、主に使え、主の名を愛し、主の僕となり、安息日を守り、それを汚すことがな」ければ、神様は異邦人を「わたしの祈りの家の喜びの祝いに連なることを許す…」と書かれています。このことは、さらにまさった新しい契約においても同様です。異邦人はイスラエルに接ぎ木され、霊的イスラエルとされたのだと聖書は表現しています。

「しかし、ある枝が折り取られ、野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され、根から豊かな養分を受けるようになった」ローマ 11:17

キリストは、国籍や人種に関係なく、すべて信じる者のために、「新しい契約」の仲介者として今も働いています。新しい契約と古い契約とどちらも基本的な構成要素は同じで、ユダヤ人であろうと異邦人であろうと、神様の恵みにより救いが提供されます。

【水曜日・更にまさった契約】

新旧どちらの契約も、救いは、私たちに何等かの価値があるからではなく、神様を信じる信仰により、恵みによって与えられるものであることが教えられています。しかし、新しい契約は、古い契約に比べて「更にまさった契約」と表現されています。これは新旧の契約において優劣があるということでしょうか。ヘブル 8:5~8 を見てみましょう。

ヘブル 8:5 「この祭司たちは、天にあるものの写しであり影であるものに仕えており、そのことは、モーセが幕屋を建てようとしたときに、お告げを受けたとおりです。神は、「見よ、山で示された型どおりに、すべてのものを作れ」と言われたのです。8:6 しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです。8:7 もし、あの最初の契約が欠けたところのないものであったなら、第二の契約の余地はなかったでしょう。8:8 事実、神はイスラエルの人々を非難して次のように言われています。『見よ、わたしがイスラエルの家、またユダの家と、新しい契約を結ぶ時が来る』と、主は言われる」

古い契約の問題は契約そのものではなく、民がそれを信仰によって理解することに失敗したからでした。しかしながら、新旧の契約を比較すると、そこに大きな違いがあることに気づかされます。それは地上の聖所は天の聖所の写しに過ぎなかったということです。地上の聖所では、贖い主であるイエス様が、犠牲の動物を通して現わされていました。しかし、2000年前に神の御子、イエス・キリストが人となって地上に来られ、十字架にかかって死んでくださいました。そして、昇天後、大祭司としての働きを天においてしてくださっています。新しい契約では、そのことがよりはっきりと、さらに完全な形で啓示されているのです。

また、ヘブル 10:1 には、「いったい、律法には、やがて来る良いことの影があるばかりで、そのものの実体はありません。従って、律法は年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって、神に近づく人たちを完全な者にすることはできません」と書かれています。ここにも、古い契約はやがて来られる良い方、イエス・キリストの影にすぎず、毎年いけにえの動物を捧げたとしても、それが人を完全なものにすることはできないとはっきり書かれています。それができるのは、犠牲の動物が象徴していた実体であるイエス・キリストだけなのです。

【木曜日・新しい契約の祭司】

ヘブライの信徒への手紙は、天の聖所における大祭司としてのイエス様に強調点をおき、新約聖書の中で新しい契約を最も詳しく提示しています。その意味では、とても重要です。そこには地上の聖所やそこでの奉仕は、天の聖所におけるキリストの働きを象徴していたのだということが書かれています。それゆえ、たとえばヘブル 10:4 では「雄牛や雄山羊の血は、罪を取り除くことができない」と教えられています。地上の聖所で行われていた奉仕は、古い契約の真理が教えられるための手段でした。そのためユダヤ人たちは、動物の犠牲により、実際に自分たちの罪が赦されると考えていたことでしょう。しかし、それはやがて来るべき救い主イエス・キリストとその贖いの業を象徴していたにすぎなかったため、実際の罪を取り除くことはできなかったのです。キリストが地上に来られ、十字架で血を流されました。これにより、それを象徴していた動物の犠牲は役割を終えたのです。そして、それを象徴するかのように、イエス様が大声で叫んで息を引き取られたとき、「神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け」(マタイ 27:51) たのです。これによりレビ人たちの奉仕の必要もなくなりました。キリストはいま天の聖所において仲保の務めをしておられますが、これは私たちの大きな希望です。